

百五銀行 本店岩田棟

Hyakugo Bank Iwata Head Office

No. 10-056-2019作成

新築
事務所

発注者	株式会社 百五銀行	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	清水建設株式会社一級建築士事務所 SHIMIZU CORPORATION	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	清水・日本土建共同企業体	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

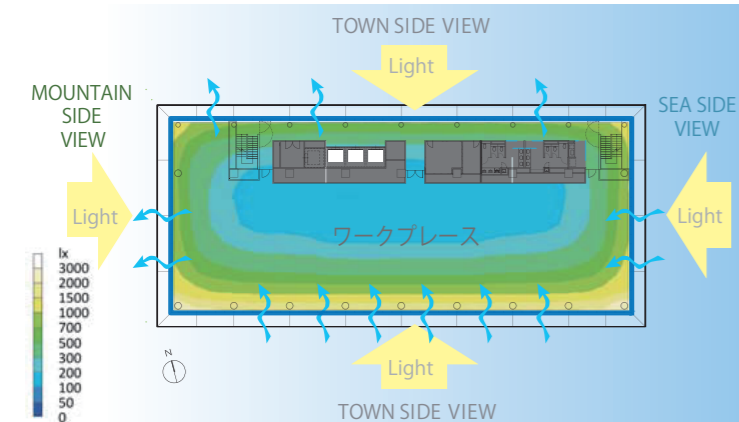
豊かな自然環境を享受するワークプレイス

4面全面開口のフロアプレート

この建築は、海と山に囲まれ、広く水平線を望める豊かな地にある。この恵まれた空間を最大限に享受するため、伸びやかなフロアプレートを積層させ、軒庇を備えたフルハイト4面開口の開放的・連続的な空間を志向した。天井と同レベルにある”軒庇”が外部と内部を空間的にゆるやかに接続、外光を効果的に制御しながら穏やかな明るい緑の空間を創出し、オフィスのコミュニケーションの場を生み出している。軒庇の深さは2mに設定、直達日射を防ぎ安定した外光利用を図った。中間期で約半分以上のエリアで500lxを確保することができる。コアは建物の形状から効率的なサイドコアとしているが、壁面からフローティングさせたアイランド型コアとして全面開口を実現、通常は閉ざされがちな共用部においても昼光利用を図った。ブラインドは軒庇の効果でほとんどの時間帯で不要、全自動制御として計画的に開放し、明媚な伊勢湾の風景を最大限に望むことができる。



庇とガラスカーテンウォールの積層表現



アイランド型コア形式の基準階レイアウトと昼光による照度分布



昼光利用可能な明るい共用部



広がる伊勢湾の水平線を望む

風を感じるオフィス空間

～ウォールスルーのカーテンウォール～

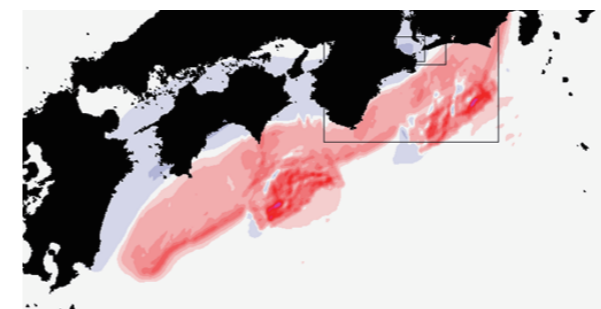
旧本店ビルにもバルコニーがあり、中間期には窓を開けて執務をしていた。本計画においても風を感じながら働ける快適な空間を継承すべく、CWの足元には自動制御の換気窓を設けた。一般的なスリット換気口と比して格段の通風量を確保、山風・海風が特徴的なこの地域の卓越風を考慮した換気窓の配置としている。換気窓の制御は外気温・風速・空調と連動させた全自動システムを構築しており、外調機とのハイブリッド外気冷房・ナイトパーズも可能で自然換気窓の効果を最大化している。初年度の測定実績においては他の省エネ技術の効果とあわせ建物全体として1次消費エネルギー約60%の削減（2005年東京都一般事務所ビル平均比）を達成した。

中間期には自然換気のみで26℃以下にすることも可能で、”空調レス”での運用を実現、高層建築でありながら風を感じる心地よいワークプレイスを創出している。

さまざまな災害を想定した確実な事業継続

地域中核銀行の本店としての責務を果たせるよう、様々な事象に対応した信頼性の高いオフィスが求められる。地震に対しては1階の本店も含めてすべてのフロアが免震化される基礎免振構造を採用し、お客様・従業員の安全が確保される耐震性能を実現している。また、液状化対策として既存建物の躯体再利用、格子状地盤改良などの技術を採用、地盤の沈下を防止すると共に、建物の免震効果も高めた。

津波に関しては独自の津波シミュレーションを実施、当該地のリスクを予測して浸水対策を策定している。また停電対策として発電機による7日間分の防災負荷をバックアップ。近隣住民の収容も考慮しており、省エネ性、快適性、信頼性を兼ね備えた建築としている。



清水建設が独自に行った津波シミュレーション

受賞歴

三重県建築賞入選/空調調和・衛生工学会技術賞 技術振興賞

設計担当者

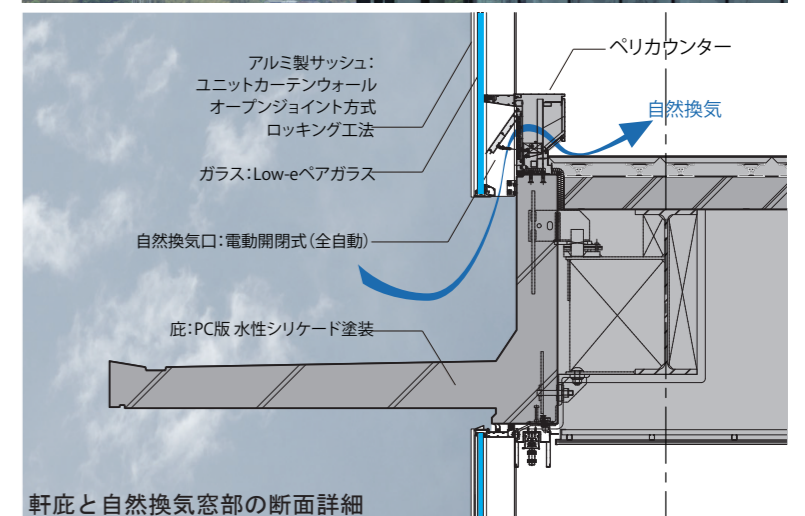
統括：鼻戸隆志、瀬尾剛史/建築：石川慎一郎、鈴木康二郎、明村晶子/構造：島崎大、津曲敬/設備：池田真哉、森田英樹、飯島淳一、石川栄一/エントランスデザイン協力：FIELD FOUR DESIGN OFFICE 並木良一/外構：FIELD FOUR DESIGN OFFICE 小澤亮太

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2 .2. 耐用性・信頼性（基礎免震・液状化対策・設備BCP対応）
- Q3 .1. 生物環境の保全と創出（外構緑化・地域の郷土種への配慮）
- Q3 .2. まちなみ・景観への配慮（形態のまちなみとの調和・新たなシンボルの形成）
- LR1.1. 建物外皮の熱負荷抑制（高性能ガラス・庇の深い外装）
- LR1.2. 自然エネルギー利用（自然換気・自然採光）
- LR1.3. 設備システムの高効率化（LED照明・センサー制御）



自然換気窓を足元に組み込んだカーテンウォール



軒庇と自然換気窓部の断面詳細



歩道と一体的に計画された開放的な外構。津波シミュレーションや河川氾濫を考慮し、周辺地盤より1mほど建物レベルを上げている

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	PAL削減 30.24 %	Sランク
竣工年	ERR (CASBEE準拠) 31.10 %	BEE=3.3
敷地面積		2010年度版
延床面積		自己評価
構造		
階数		

